

体

甲斐真由美
先生



大津町では、栄養教諭と栄養職員が協力して町全体の食育に取り組んでいます。食育は一人の力でできるものではありません。しかし、多くの人が連携すれば、その効果は2倍、3倍になります。栄養教諭は食のコーディネーターといわれており、食に関する授業を行うだけでなく、子どもたちと先生、地域、家庭をつなぐ存在にならなくてはけません。今後は、栄養職員や学校の先生、そして地域や家庭と連携して食育に取り組んでいきます。

食育事業

室小学校



大津町唯一の栄養教諭が所属している室小学校は、食育の取り組みの拠点として、総合的な学習の時間などを使い、食に関するいろいろな取り組みを行っている。先日、2年生が、翔陽高校の生徒と一緒に大根と白菜の種まきを行った。自分たちで種まきを行うことで、野菜を育てることに興味を持ち、食への感謝が芽生える。また他の学年では大津養護学校の生徒とからいもを使った茶巾絞りを作る。こうした食を通した高校生や養護学校の生徒との交流は、翔陽高校や大津養護学校が近くにある室小だからこそできる取り組みだ。

栄養教諭は給食管理を行うだけでなく、室小学校の各クラスで子どもたちに混じって一緒に給食を食べるなどして、子どもたちとのつながりを作っている。今後、栄養教諭は活動の場を室小学校だけに限定するのではなく、室小学校を拠点として、町内全ての小中学校の授業に関わり、食育を行っていく。

体

稲葉茂和
先生



毎朝のランニングは、一人だけでは続けられません。みんなで助け合って走るからこそ、毎朝のランニングは継続できます。また、ランニングを行って持久力をつけることで、体力だけではなく、学習など他の物事に対する持久力もつけることができます。たとえ部活をしていない子どもであっても、ランニングを6年間続けるということが大切です。これから大津北小学校では、この取り組みを継続させていきたいと思っています。

朝ランニング

大津北小学校



大津北小学校では、全児童が毎朝8時から3分間走るという取り組みを行っている。晴れの日グラウンドで、雨の日体育館で行われ、生徒たちは朝ランニングを毎日欠かさない。大津北小学校は、全校児童の3分の2が遠方から通うため、路線バスやスクールバスなどを利用して通学している。そのため、他校の児童と比べて通学距離は長い、歩く距離が短くなってしまう。そこで、大津北小学校は「命を大事にする」という学校教育目標を達成するために、基礎体力づくりとして毎朝3分間のランニングに取り組むことにした。これは学習前に頭を目覚めさせることも兼ねている。

毎日少しずつ走れる距離を延ばし、「今日は昨日よりも多く走ろう」と自分なりの目標を立てて頑張っている。3分間という短い時間行うことが、継続できている秘訣なのだろう。みんな楽しんで参加しているこのランニングが北小っ子の元気の源だ。

大津中学校

総合的な学習の時間

徳

田中宏和
先生



最近では総合的な学習の時間が減っているので、このような取り組みを行うことはだんだん難しくなっています。しかし、ずっと続いてきたこの取り組みをこれからも受け継いでいきたいという思いがあるので、この学年で終わらせることなく次につなげていきたいです。今はどのコースも仕上げる段階に入っています。11月16日(水)の文化祭では、生徒たちがそれぞれ学んだ成果を披露するので、皆さんぜひ見に来てください。



大津中学校では、総合的な学習の時間に、地域の人を講師として招き、伝統文化を学んでいる。これは、大津町に伝わる伝統文化に触れ、その歴史や知恵を学び、継承していくことや地域の指導者に学ぶことで、地域の人との交流を深める機会にすることを目的にしている。「大津太鼓」「琴」「梅の造花」「茶道」「郷土料理」「押し花絵画」「絵手紙」「演劇」の8コースがあり、生徒の主体性に合わせて学んでいる。

7月から11月までの毎週金曜日の午後、大津中学校3年生の204人は、それぞれのコースに分かれて活動を行う。活動は全10回行われ、地域の人と関わり、体験をしながら学ぶことは、子どもたちに後々まで記憶に残る学習となる。また町の文化を学ぶことは、町をもっと知り、文化の温かみを感じることもつながっている。そして、中学校の文化祭でそれぞれのコースの成果を披露する。

護川小学校

もりかわ
コミュニティ・スクール
(M・C・S)

徳

三神幸一郎
先生



現時点で、見た目には特別なことをやっているわけではありません。地域の皆さんと児童が共に行う田植え場面を想像してみてください。M・C・Sだけにある明らかな違い。それは、田植えの一場面に子どもと学級担任の思い、地域の皆さんの願いが凝縮されていることです。そのことを田植えに関わる全ての皆さんが共有していることです。この取り組みを継続することで、人との関わりや思いといった“厚み”が育まれ、近い将来、子どもたちや地域の大きな変容が報告できるのではないかと思います。



護川小学校では、これまで「地域と連携した小学校づくり」が模索され、その時々必要に応じて「サタデースクール」「セーフティーボランティア」「いきいきもりかわっ子活動」などの特徴ある取り組みを進めてきた。こうした中で、昨年まで続けられてきた「学校支援地域本部事業」の取り組みの成果を踏まえつつ、一方ではその場対応的であったり、計画性が乏しかったりした点を反省しながら、「コミュニティ・スクール構想」を具体化してきた。

護川小学校に関わる四者(行政、学校、家庭、地域)が、一方通行でお願いしたり、されたりする関係ではなく、互いに自立し、信頼し合い、連携し合って大人のコミュニティを形成していく。「もりかわコミュニティ・スクール」は、そんな学校を中心にした教育・学習の町づくりを目指している。